

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

775

ふれ愛センター管理運営事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	9	将来に向かって希望の持てる福祉社会の形成
施策	3	障害のある人の自立と社会参加の推進
取組方針	3	社会参加・自立に向けた支援体制づくり

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	○
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	民生費		
	項	社会福祉費		
	目	ふれ愛センター費		
	大事業	ふれ愛センター管理運営事業		
	中事業	ふれ愛センター管理運営事業		

事業種別	継続		関連個別計画	和歌山市障害福祉計画		
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	障害者支援課	赤山 辰如 435-1060
事業実施の根拠法令			関連課			

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	市民の地域活動の振興及び社会福祉事業の総合的な推進に努め、市民の福祉増進に努める。		障害者をはじめ社会福祉関係者が主に利用する多目的かつ広域的な施設である和歌山市ふれ愛センターを管理運営する。			
事業内容		平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
		ふれ愛センターの管理運営及びふれ愛事業(ふれ愛センター事業及び障害者いきいき事業)を指定管理により実施した。	ふれ愛センターの管理運営及びふれ愛事業(ふれ愛センター事業及び障害者いきいき事業)を指定管理により実施した。	ふれ愛センターの管理運営及びふれ愛事業(ふれ愛センター事業及び障害者いきいき事業)を指定管理により実施した。	ふれ愛センターの管理運営及びふれ愛事業(ふれ愛センター事業及び障害者いきいき事業)を指定管理により実施する。	ふれ愛センターの管理運営及びふれ愛事業(ふれ愛センター事業及び障害者いきいき事業)を指定管理により実施する。

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	92,874	88,562	91,675	86,903	89,276	103,298	90,020	0	90,020	0
伸び率(%)	△0.7%	△3.2%	△1.3%	△1.9%	△2.6%	18.9%	0.8%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	9,424	7,410	7,326	7,007	6,827	6,827	7,137	0	7,137
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	115	0	115
	小計	9,424	7,410	7,326	7,007	6,827	6,827	7,252	0	7,252
国庫支出金	8,774	4,011	8,723	8,723	8,670	22,754	9,190	0	9,190	0
県支出金	3,417	2,816	3,382	3,382	3,374	3,131	3,583	0	3,583	0
市債	1,000	800	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2,166	1,909	2,133	0	1,969	1,670	1,863	0	1,863	0
一般財源(税等)	77,517	79,026	77,437	74,798	75,263	75,743	75,384	0	75,384	0
所要人数(人)	正規職員	1.17	0.92	0.92	0.88	0.88	0.88	0.92	0.00	0.92
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05	0.00	0.05
主な予算内訳	管理運営委託料88,188千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
ふれ愛事業(教室)実施件数		件	目標値	20	20	20	20	20
			実績値	20	20	20		
			達成度(%)	100%	100%	100%	%	%
教室延利用件数、延べ受講者数		件	目標値	6000	6000	6000	6000	6000
			実績値	2829	2842	2425		
			達成度(%)	47.15%	47.4%	47.4%	%	%
免除団体利用件数		件	目標値					
			実績値	4765	2885	2819		
			達成度(%)	0%	0%	%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む		中長期的に取り組む	○ 緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	障害者のニーズに応じた会館として必要である。
見直し・改善内容	ほとんどが障害者団体・高齢者団体としてのセンターの利用であり、免除団体としての貸館業務がメインとなる。今後、受益者負担について、このままでよいのか検討が必要である。